

2024 年度:こども園自己評価の報告書

ともだちこども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	・豊中市の基本理念である「人とつながり生きる力を培う」に基づき、園内の研究テーマを「違いを認め合い共に育つ仲間づくり～自己肯定感を育む環境作り～」とし、本園の子どもの実態を捉えて指導計画をたて実践した。 ・研究テーマに基づき講師を招き、子どもの姿や職員の悩みなどに対して具体的な助言をいただいた。一人一人を大切にし、つながりを意識した活動など学べたことで実践につなげることができた。 ・園内の公開保育に加え、豊中市教育保育環境ガイドライン研修公開保育を行った。様々な項目について職員が教育保育を振り返り実践につなげる機会となった。
健康支援	・年間保健計画に基づき、毎月の身体測定の時間に保健指導を行い、子ども達自身が進んで健康で安全な生活をしようとする意欲を持てるよう取り組んだ。 ・子どもが自分や友達の体を大事に思う意識をもてるように、絵本など用い、年齢や発達に合わせて身体の話をした。 ・子どもの体調を保護者と共有するために、丁寧に日々の連絡を行った。 ・感染症が流行した時には配信し、感染症拡大を防止した。
安全指導・危機管理	・日々の出欠確認や療育施設への受け渡しなど、所在の確認がしっかりとれるよう連携を丁寧に行い、マニュアルを定着させていった。 ・毎月、安全点検と避難訓練を実施し、危険個所や不具合があった場合は修繕依頼など行い、事故防止に努めた。避難訓練では、想定した災害に対しての避難方法などを子ども達とも確認した。不審者侵入を想定した訓練では、警察官に実際の訓練を見てもらい指導を受けた。職員間でも共有し、危機管理について見直す機会となった。 ・1.17 の集いでは、過去の震災から子ども達と命の大切さ、身を守る方法など考える機会を持った。
食育の推進	・各クラス、菜園活動に取り組み、育てた野菜の収穫、クッキングの経験を楽しんだ。また、技能職員と相談しながら年齢に応じた給食食材の皮むきなど経験し、食材への関心や食べる楽しみにつながった。保護者へも玄関掲示・配信などで伝え、食育への推進を行った。 ・「手作りおやつ講座」では、育てた小松菜を使って技能職員が中心となりおはぎ作りに取り組んだ。親子で調理を体験し、とても嬉しそうに味わう親子の姿が見られた。
子育て支援（在園児および地域）	・懇談や参観、おたよりなどで園の教育保育を発信した。 ・保護者の悩みを聞き、必要に応じて話し合いを持ち、他機関と連携し支援に繋がったりした。 ・地域支援センターでは、誕生会や地域サークルなどで園児と地域の親子の交流をもち、お互いにとっていい交流の場、刺激となった。また、参加した保護者同士が顔見知りとなり、安心して園に遊びに来られる姿も見られた。

インクルーシブ教育保育	・子ども理解を深め、生活や遊びの中で友達とつながり、ともに育ちあう教育保育を実践した。保護者と一緒に課題や支援を具体的にしながら教育保育に取り組んだ。 ・発達支援センター等と連携し、専門家からのアドバイスを受け支援の充実を図った。
職員の資質の向上 ＊園評価 ＊自己評価 ＊ガイドラインなど	・公立こども園自己評価表を用いて自己評価を年２回実施。項目のチェックとともに気づきの伝えあい・課題の共有、改善策などを考えた。 ・園内公開保育、豊中市教育保育環境ガイドライン研修で「教育保育環境ガイドライン」を活用しながら、職員間で保育を振り返り、自己肯定感を育む環境作りを考えた。他市や民間の職員と意見交換ができ、新たな気づきにもなった。 ・人権研修では、園の事例や講座を通し多様性について、また部落差別の実態を通して自分の中の差別意識について考える機会を持ち、職員間で思いを伝えあい自分の人権意識に触れる機会を持った。
幼保こ小中の連携・接続 ＊園同士のつながりも含む	・幼保こ小連絡会、地域連携会議に参加し、近隣の小学校・中学校、児童養護施設など、地域の情報を共有した。 ・就学予定の各小学校と連携を図り、子どもの様子を見てもらいながら話をするなど、丁寧に引継ぎを行った。
評議員会	・行事や公開保育の様子を見てもらったことで、園の実践や子ども達の姿をより具体的に知ってもらえる機会が持てた。それぞれの立場から、園の教育保育について様々な意見をいただいた。 ・保護者アンケートから見えてきた、園の現状や課題を報告し、「相談しやすい環境づくり」について意見をいただいた。
その他	・新任、転任の職員の児童養護施設の見学と、地域のフィールドワークに参加した。参加した職員は、自分の認識の違いや思い込み、新たな気づきなどもあり正しく知る機会を持つことができた。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
子育て支援	・保護者が安心して子育ての悩みや相談ができるよう、あいさつや会話を重ね、声をかけやすい雰囲気を作っていく。 ・保護者に寄り添い信頼関係の構築に努め、他機関と情報を共有し支援に繋げる。
教育保育内容の充実と発信 職員の資質の向上	・違いを認め合い共に育つ仲間づくりをめざし、人権教育保育に取り組もうとする職員集団をめざす。その為に職員自身の人権意識を高めていける研修や、子ども理解を深め肯定的なかかわりを意識していけるような研修を企画し、学んだことや意見を伝えあえる場を充実させる。

令和 7 年（2025 年）3 月 31 日

豊中市立 ともだちこども園

園長名 藤井典子